



下野永福寺の大日如来

代とほぼ同じで、その頃の開村とみても、あまり無理はないようである。ただ風土記には地藏が本尊として客殿に安ずとあるが、永福寺の本尊は御丈五二センチの大日如来で、塗りかえられたのはむしろ惜しむべきである。

2、下野新田の開発 村西につづいて、出新田三軒があった。現在は下野に含まれているが、寛永十六年（一六三五）の開拓新田で、蒲生時代は過ぎて、加藤も嘉明既に亡く、子明成が鶴ガ城の西出丸改修をした年になっているが、藩の新田開発政策と関聯があると思われる。

付 文化六年風土記より

下野村 端村、出新田

府城の西南に当り、行程一里二十九町、家数十七軒、東西二町二十六間、南北四十間、四方四圃なり。東一町二十八間、南一町二十六間、共に上荒井村の界に至る。其村は寅に当り四町、西五町四十八間、大沼郡本組橋爪村の界に至る。其村は未申に当り五町五十間余、北二町三十八間、金屋村の界に至る。其村まで三町十間余。

○端村 出新田、本村の西二十間余にあり、家数三軒、東西三十二間、南北三十四間、四方田圃なり。寛永十六年（一六三九）に開けり。

○神社 熊野宮、境内東西四間、南北五間、免除地。村中にあり。鎮座の初伝わらず、鳥居あり、永福寺司なり。